

第16回のテーマ

コミュニケーション機能のアセスメント

皆さんは、精神疾患をもつ人と関わる時、コミュニケーションが難しいなと思った経験はありませんか？精神疾患をもつ人の中には、他者の表情や言動を理解することが難しく、場の空気を読んだ振る舞いが難しいという特徴をもつ人もいます。対人コミュニケーションを円滑にするためには、他者の発言で表される言語的メッセージと、表情や視線などの非言語的メッセージを理解し、他者の言動の意味を推測することが必要です。言語的・非言語的メッセージを理解するためには様々な認知機能が働きますが、「心の理論 (Theory of Mind)」と呼ばれる認知機能が、目には見えない自分や他者の考えや気持ちを推測するために重要な役割を果たしています。

心の理論は心理テストで評価することができます。ここでは、Corcoranらが作成したヒント課題を紹介します。ヒント課題では、以下のようなイラストを示しながら、ストーリーと質問を示します。ぜひ試しに考えてみてください。

(1) 課題名：誕生日プレゼント

ストーリー：愛美さんの誕生日が近づいています。愛美さんは、お父さんにこう言いました。「私、動物が大好き。特に犬が好きなの。」

質問：愛美さんの発言の本当の意味は何でしょうか。

正答：「お父さん、私の誕生日に犬を買ってこない？」



(2) 課題名：暑くて長い旅

ストーリー：太郎さんは、暑い日に高速道路を長距離運転した後に花子さんの事務所に着きました。花子さんは、すぐに仕事の話を始めました。太郎さんは花子さんを遮ってこう言いました。「ちょっとちょっと！僕はこの暑期中、長距離運転をしてきたばかりなんだよ！」

質問：太郎さんの発言の本当の意味は何でしょうか。

正答：「飲み物をもらえますか？」、「仕事の話をする前に、少し休憩をとってもいいですか？」



いかがでしたか？(1)は簡単だったのではないかと思います、(2)はちょっと考えたのではないのでしょうか。登場人物の発言の背景には、相手が言いたい本当の思いが隠れています。(1)は願望を表す単純な感情を扱った課題ですが、(2)は怒りの感情が込められた皮肉めいた言い方です。

精神疾患の中でも特に統合失調症をもつ人では、(1)のような願望を問うような単純な他者の意図は理解しやすいですが、言葉通りの意味と他者の発言の背景にある意図にずれがあるような隠喩的な表現を理解することが難しく、(2)の怒りのようなネガティブな感情を理解しにくいことがあります。さらに、精神疾患を若くして発症した人や、思考が回りくどかったり思考が滞ってしまうような思路障害（思考プロセスの障害）がある人、現実的な根拠がない妄想が強い人、集中力や注意力が低下している人においては、心の理論が低下し、他者の考えや気持ちの理解が難しい傾向があります。1)

このようなコミュニケーション上の特徴を持つ人と話すときには、回りくどい表現は避け、端的で分かりやすい表現にすることが必要です。さらに、否定的な表現ではなく、ポジティブな言い方に変換して話すことも、コミュニケーションを円滑にすることができます。ちょっとした工夫で、コミュニケーション上の難しさを軽減することができるかもしれません。コミュニケーションの難しさの要因の一つには認知機能の低下や変容があります。相手のコミュニケーション機能の特徴を理解し、その特徴に合わせた支援をすることが大切です。

文献 1) 鈴木美央ら (2023) 統合失調症者の「心の理論」における他者の意図の推論機能と精神症状の関連. 日本看護学会誌, 43,p520-528.